

2007 年度

科目名	対象学科・学年	担当者
日本民俗学	文学部全学科 2 回生 教育教福 2 回生	角南 聡一郎
授業テーマ 学史とモノからみた民俗学		
授業の概要と目標 日本には学史的にみると民俗学（フォークロア）と民族学（エスノロジー）という 2 つのミソゾク学が存在します。この 2 つの学問の形成と発展には、多くの人々が関わってきました。本講では、学問形成において重要な役割を果たした研究者の活躍を紹介します。また、物質文化（モノ）研究という視点から、2 つの学問とそこから派生した民具学の歩みを振り返ってみます。後半では、農具、漁撈具などを題材に、考古資料も含めたモノをめぐる民俗学を紹介します。さらに、民俗学・民具学が現代社会にとどのようにかかわるべきかを、博物館における民具などの展示の問題と関連させながら考えていきます。		
評価方法 出席及び授業時の不定期試験とレポート、により成績評価を実施します。		
テキスト 特になし	著者	出版社
参考書 民俗学がわかる事典 新訂 生活文化論	著者 新谷尚紀編著 中村たかをほか	出版社 日本実業出版社 源流社
1. 民俗学・民族学とは何か？ 民俗学・民族学の定義と研究範囲について紹介する。 2. 民具学とは何か？ 民具学の定義と研究範囲について紹介する。 3. 博物誌学の時代 江戸時代までの本草学・博物学にモノ研究の萌芽を探る。 4. 博物誌学から総合人類学へ モノ研究をキーワードとして、近世の博物学から近代総合人類学への移行過程を概観する。 5. 東京人類学会の時代(1) 坪井正五郎を中心とした東京人類学会の活動の中に民俗学・民具学の源流を見る。 6. 東京人類学会の時代(2) 鳥居龍蔵を中心に民俗学と民族学の関係を考える。 7. 民俗学と民族学 (1) 南方熊楠と西洋博物学の出会いが、民俗学・民族学に影響を与えた軌跡をたどる。 8. 民俗学と民族学 (2) 柳田国男・折口信夫らによる民俗学の組織化の過程を見る。 9. 民俗学と民族学 (3) 岡正雄・石田英一郎のウイーン留学が日本の民俗学・民族学にもたらした影響について考える。 10. 民俗学と民族学 (4) 渋沢敬三らアチックミュージアムによる民俗学・民族学の方法について紹介する。 11. 民具研究と民俗学・民族学 宮本常一の人生から各学問の関係を見る。 12. その後の民具学 民具学の提唱とその後の流れについて、今日的意義に留意しながら振り返る。 13. 植民地と民俗学・民族学 (1) 日本植民地の領有が、民俗学・民族学に与えた影響について紹介する。 14. 植民地と民俗学・民族学 (2) 南洋、樺太、満州について。 15. 民俗学研究の最前線 現在民俗学・民族学研究の課題と展望。 16. 民俗学と農耕用具(1) 原始・古代の農耕用具について。 17. 民俗学と農耕用具(2) 中世・近世の農耕用具について。 18. 民俗学と農耕用具(3) 近現代の農耕用具について。 19. 民俗学と漁撈用具(1) 原始・古代の漁撈用具について。 20. 民俗学と漁撈用具(2) 原始から近世の漁撈用具について。 21. 民俗学と漁撈用具(3) 近現代の漁撈用具について。 22. 民俗学と山樵用具(1) 中世・近世の山樵用具について。 23. 民俗学と山樵用具(2) 近現代の山樵用具について。 24. 民俗学と生活用具(1) 原始・古代の生活用具について。 25. 民俗学と生活用具(2) 中世・近世の生活用具について。 26. 民俗学と生活用具(3) 近現代の生活用具について。 27. 民俗学と信仰用具(1) 原始から近世の信仰用具について。 28. 民俗学と信仰用具(2) 近現代の信仰用具について。 29. 民俗学・民具学と考古資料 民俗学及び民具学と出土近現代資料との関係について考える。 30. 民俗学・民具学の今日的意義と可能性 民俗学・民具学は現代社会においてなぜ必要か？博物館活動とどのように関わっていくべきかを時事問題に照らしながら考える。		